

# 葡萄の香



日本基督教団  
酒田教会

〒998-0037  
酒田市日吉町  
1-1-7  
TEL 0234-22-1224  
牧師 塚本恭子

## 聖霊に生きる

### 酒田教会牧師塚本恭子

ヨハネ福音書20章19〜23節

あの日の出来事とは、イエスが十字架に架かったあの金曜日から三日経った日曜日の夕方のことです。主の弟子たちはユダヤ人を恐れて、ある家の二階に、戸に鍵をかけて隠れていました。この家はエルサレムのマルコの母の家で、そこは過越の夜、イエスと弟子たちが最後の晩餐をした場所ではないかと言われています。その家の二階の広間に、弟子たちは戸を閉ざして、不安と恐怖に脅えていたのです。彼らはユダヤ人たちがイエスの死刑を果したので、今度は自分たちとその刑がおよぶのではないかと恐怖におののいていました。イエスと同じ罪で、社会秩序を乱す者、神を冒瀆する

者として捕らえられることを恐れていたのです。この日の朝早く、マグダラのマリヤたちが主イエスの葬られた墓の前で、復活の主と出会ったことを聞いても、婦人たちのたわごとと思い、弟子たちの多くは復活など信じられませんでした。

ここに驚くべき出来事が起きました。いま、誰かが鍵をかけている自分たちの部屋にノックをしています。誰かが来る。そのドアを叩く音が静まりかえった部屋中に響いた時、弟子たちは自分たちを捕まえに来た敵に対して全員緊張に体を強ばらせて構えました。ところがドアを開かないのに主イエスは姿を現わして弟子たちの真ん中に立ち「シャローム」と言われました。主イエスは密室である部屋に入ってきて、弟子たちの間に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われたとヨハネ福音書は記録しています。

でもヨハネ福音書では、この復活の主の

存在は神なので、不思議な出来事ではありません。神が御自分の存在を弟子たちに現わしたのです。だから、復活の主は、私たちの時間と空間を超えた存在でした。

ヨハネ福音書は、初めからナザレのイエスは神であったと証言しています。福音書のテーマが「神の言が肉となった」ことで、神が人間の体をもってわたしたちの間に宿られたと福音書は神の子イエスを語ります。神の言葉が人間の歴史の中に突入した現実を語り、弟子たちと共に存在したのだと。だから今、復活の主は、神が本来の姿にもどり、弟子たちの真ん中に立っていると語ります。

「主はそう言って、手とわき腹とをお見せになった。」とは主イエスが、「わたしはあの十字架で死んだイエスである」ことを明らかに示しているのです。主イエスは弟子たちに、釘跡のついた両手と差し抜かれた脇腹の傷跡を見せて、復活した主と十字架につけられたイエスが同じ主であったことを認識させています。そこに集まっていた人たちが全員が神の姿の主イエスを目と体で実感出来ました。復活の主が彼らの真ん中に立つとは、共同体の中心に復活の主が立っていることで、やがて教会が成立し、そ

の教会は頭なるキリストの体であることを暗示しています。

最後の晩餐と言われている主イエスとの別れは不安と悲しみと絶望でした。ところが復活の主との再会が喜びと希望と勇氣が与えられました。ここに私たちが絶望の中で出会うキリストは、私たちに喜びと希望を与えることが示されています。人生に意味が無いような自分の存在も、前に進むことのないような今日の一日も、この復活の主と共にあるときは「シャローム」と主は現われ、心に平安が与えられ、私たちは喜びに生きることが出来るのです。

もう一つは、イエスは「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」と言われます。復活の主の現は、神の国の形成のために弟子たちを遣わすことでした。人々に「平和と喜び」を与えるという世界宣教のために、弟子たちを派遣することでした。ここに、ユダヤ教とは全く違う新しい宗教であるキリスト教が誕生します。弟子たちは復活の主から權威が与えられて「罪の赦しと救いの業」をするキリストの弟子として、世界に派遣されるのです。父なる神から主イエスが遣わされたように、主イエスの弟子たちが聖霊

に従って新しいキリストの共同体をつくるために派遣されます。

主は弟子たちに息を吹きかけて「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」と。弟子たちは、今、主から直接息を吹きかけられて、神の霊に生きる者となりました。復活の主から、そこに集められた人たち（エクレシア）に、息が吹き付けられて聖霊を受ける出来事が起きたのです。

「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」と弟子たちは主から同時に罪の赦しの權威を授けられました。この權威は私たち教会が担っているものです。私たちは信仰告白し、洗礼を受けて罪の赦しを与えられています。しかし、主は悔い改めないものに「神の赦しがない」ことを警告しています。だから、神が「義」とした人たちが教会に属して、神の子らとされるといふ、教会が神から委託された赦しの權威を持っていると言われています。ということは、神以外に誰も他人の罪を赦す權威は無いと言

うことです。教会は、神の救いの十字架の福音を宣べ伝え、心から懺悔するものに確信を持ってキリストの赦しを宣言するものです。現在の私たちの教会も、聖霊が降るといふ、神の支配の中にあります。目には見えない神を、讚美し祈る礼拝の中で、聖霊の働きを知る、神を知るのです。今もお、あなたの心の内に語りかけている復活の主の言葉を聞き、聖霊によって生きましよう。（復活節第3主日礼拝説教要約）

## 主に導かれて

酒田教会長老奥山明子

ルカによる福音書15章11〜32節

放蕩息子の物語は、弟は父に貰った財産を金に換え旅に出て放蕩の限りを尽し、身を落し、後悔して父のもとに戻り、そして「お父さん。わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません」と悔い改めます。父は「この息子は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのを見つけたからだ」と喜び宴会を始めました。そ

れを見て兄は、怒って家に入ろうともせず「わたしは何年もお父さんに仕え、言い付けに一度も背いたことはない。弟のようなふしだらな事はしなかった。友達との宴会に山羊一匹すらくれなかった」と言ってお前を責めたのです。すると父は兄に「子よ、お前はいつも私と共にいる。私のものは全部お前のものだ。だが弟は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたものに見つかったのだから、祝宴を開き喜ぶのは当然だ」と言います。

### 私のキリスト教との出会いの道筋

終戦の年、私の家族は祖母、叔父二人、父、母、兄、私、弟、妹二人の大家族でした。農地解放による混乱と、病弱であった父に代わりに農家の仕事をする母、兄、叔父達の苦労は大変なものでした。私が初めて聖書を手にしたのは、家に在ったものです。子どもの頃に印象深く覚えているのは、母が医者に行くお供で、帰りに千日前の大伯母の家に寄ったとき、塀の内に暁星教会の看板があったことです。

高校の時、進学を望んだが、父に大反対をされて困っていたところを祖母が父を説得してくれたので進学が出来ました。祖母は、「自分は小学4年迄しか学べず残念だっ

たので、これからの時代は男とか女とか言っている場合ではない。大学へは、進みたい者が男女の別なく行くべきところだ。貧しいが、費用はどうにでもなるものだ。」と賛成してくれました。それでも父は私のことを東京で文部省に勤めていた叔父に相談していました。このように送り出して貰ったのに、私は挫折に挫折を重ね、ついに三十六歳にして東京から酒田に戻ってきました。

進学先はミッション系大学で、私は学生時代宗教部に入り、友人に誘われて色々な教会に行きました。学校の紹介で下谷教会にも行きました。又、天城山荘での研修会等にも友人と共に参加しました。卒業後、幸いにも法人組織の所で働くことが出来ました。その時大伯母と一緒に教会に行く機会が与えられて、三度も受洗を受けようかと思うこともありましたが、決断できませんでした。

酒田に戻ってからは、私の華道の先生が大伯母の友人でクリスチャンでした。私は中学、高校教諭資格も保母、幼稚園教諭資格もあります。殆ど生かす事なく過ぎました。しかし、酒田教会の付属施設の酒田双葉幼稚園で実習した事で、酒田教会の礼

拝に出席するようになりました。浜中で暮らし始め、四十歳にして娘が誕生しました。娘の成長に連れ、地域の問題について行けず、保育園、小学校の役員をしていた時に、色々な事に巻き込まれ苦労をしました。連れ合いが公民館主事をしており「良くしたいと思う気持ちは解るが、良くなっているものなら、とつくに良くなっている」と言われたことがあります。

五十歳にしてパウロの回心を経て、寄り頼む神の存在にやっと辿り着きました。酒田教会で五十歳を過ぎてから佐々木牧師の指導の下に受洗しました。しかし教会内部での悩みも多く、心の凍る思いも三度や四度ではありませんでした。それもこれも、今は全て肥となつて身につけさせて頂き、主イエスの導きであったことと感謝でいっぱいです。

その後、私は市立光ヶ丘文庫で働く事になりました。目録作成の為、和・洋こなせる人が必要と言われて、古文書の解読を学ぶ機会に恵まれました。この関連で六十八歳迄働きました。大伯母からの「心の友」の贈呈や祈りで支えてくださった他教会婦人の方々、そして牧師先生には感謝の外ありません。私は昨年十二月で七十七歳にな

りました。何故かこの頃私が放蕩息子のよ  
うに覚えてくるのです。この年齢にして放  
蕩息子は、実は私の事であったと初めて実  
感させられています。私はいつでも、主イ  
エスに捉えられていて、信仰への道を歩ん  
でいたことを知らされています。主イエス  
から逃げられないようにがちりと。皆様  
と共に、天に召される日迄祈り、主に支え  
られつつ、指し示して下さる道を歩んで行  
きたいです。(三月三十日 長老奨励要約)

### 牧師館便り

☆皆様お元気ですか。「葡萄の香」第十号  
をお送りします。酒田の春は、一斉に花が  
咲きます。愛犬と一緒に散歩する日和山は、  
梅と桜と山吹と椿が一週間を待たずに咲き  
出しています。冬は音を立てて慌てて去り  
温かい春たけなわです。このような季節に  
イースターを祝う私たちは幸せです。いく  
つか皆様に教会の出来事と私のことをお知  
らせたいします。

☆イースター献金が137,000円捧  
げられました。感謝です。

多くの教会員が主のために頑張っていっ  
もより献金が多く捧げられました。教会付

属施設である託児園と幼稚園の先生方が全  
員献金をされました。又遠くにいる教会員  
や牧師の知人などがイースター礼拝に出席  
してくださったり、送ってくださったりし  
て献金をしてくださり感謝です。

☆酒田教会の玄関横の庭に植えられた老  
木、松の木を伐採しました。

大正時代からの樹齢の大木の松の木は、  
酒田教会のシンボルでしたが、涙を飲んで  
切りました。理由が二つ。一つは、松は蔦  
と絡み合い成長し、蔦に小花が咲き、そこ  
へスズメバチが沢山飛んでくるようになり  
ました。時には幼稚園の園舎や礼拝堂を飛  
び回るぐらいになり、園児が刺されること  
を懸念したことです。もう一つは、近くの  
電柱と寄り添い、電線が枝と絡み合い、そ  
の枝だけを切り落とすことが難しく、松の  
根元が砂地なので、台風や暴風で道路側に  
倒れる恐れがあることでした。

その跡地に3メートル位の樅の木を植え  
ました。今年のクリスマスにはイルミネー  
ション設置が出来そうです。松から樅に変  
わり、酒田教会はより洋風の館になります。

☆牧師はこの3月カンボジアに旅行して  
きました。3泊5日のアンコール・ワット、  
アンコール・トムの遺跡巡りです。「山新」

の企画で、山形空港からのチャーター便で、  
ちよつとした気分転換になりました。前々  
からジャングルに眠るアンコール王朝のク  
メール建築である宮殿とヒンドゥー教の寺  
院を見学したいと思っていました。ところ  
が、赤土と赤い湖、裸足の子どもたち、就  
学率の低い教育、産業の少ない国など、今  
回の旅行でよりハッキリとボル・ポト政権  
の悪政の跡や発展途上国の問題など考えさ  
せられました。

☆私たちの聖書研究会は、「ローマの信徒  
への手紙」を終わり、今年度は「使徒言行  
録」を学びます。聖霊に導かれてアジアに  
伝道するパウロの旅と一緒に参加し、パウ  
ロ神学が出来上がっていく様子を知りたい  
と思っています。私は数年前に2週間トル  
コの旅をして、イスタンブール、カッパド  
キア、コンヤ、ヒエラポリス、エペソなど  
の遺跡を訪ねました。教会の人たちとパウ  
ロの旅を共にして語り合うのが楽しみです。

### ☆教会堂の塗装

今年の夏、教会堂を白い色に塗装する計  
画を立てています。斎藤正典兄を中心に手  
分けして塗る予定です。美しい教会が現わ  
れることを夢見ています。

(牧師 塚本恭子)